

平成22年4月10日
パリ産業情報センター

一般調査報告書

フランス観光見本市(MAP)における観光PRと訪日予定者へのインタビュー

フランスにおける一般者向けでは最大の観光見本市「MAP」が3月18日から21日までの4日間にわたり、パリ市内にあるポルト・ド・ヴェルサイユ見本市会場で開催されました。昨年同様、出展者数は500団体を超え、うち外国からの政府観光局関係の参加は3割以上となりました。

今年のテーマは「文化と遺産」で、世界各地の建築、音楽、食文化などを紹介するステージショー、映画上映、ダンス・音楽の紹介などが行われました。また、今年の新設コーナーとして、フランスだけではなく世界でも注目されているタラソセラピーのコーナー、自由の国フランスらしいゲイ/レズビアンのコーナー、スポーツをテーマにした旅行を体感できるマウンテンバイク、ハンググライダー、スキーの体験コーナーが設けられ、注目を集めていました。

愛知県産業情報センターは、今年もJNTO（日本政府観光局）による日本ブースに参加しました。このなかで、愛知県は広報カウンターを設けさせていただき、岐阜県、京都府、大阪市、広島県、岡山県等の地方自治体のほか観光事業者の方々とともに協力し、日本の魅力をアピールしました。日本ブースでは、来客の名前を漢字で書く書道パフォーマンス、大阪市の出展によるロボットのパフォーマンス、空手の実演、日本茶・日本酒の試飲、和紙を使った折紙講座などのさまざまなアトラクションが行われ、たいへんな人気を集めていました。こうした魅力的な取り組みのおかげで、日本のブースは他国よりも際立って来場者が多かったように思われます。

愛知県広報カウンターでは、日本の中心部に位置する物づくりの街、歴史の街としての愛知県をアピールしながら、中部地方、特に岐阜県・富山県・石川県への縦断ルート、愛知を挟んで静岡県・三重県をたずねる横断ルートの案内を中心に行いました。

また、今回の出展では、訪問者の中でも特に日本に興味のある方や、日本への旅行を具体的に計画中の方々にインタビューし、愛知・名古屋をアピールする一方で、日本での思い出や経験、日本の魅力、印象に残った観光地、また、これから訪れたい日本の観光地などについてお話を伺いました。



ダニエル・ルカさん（50代、女性）

20歳の時から日本に行くのが夢だったと語って下さったのは、50歳代後半くらいのマダム、ダニエルさん。昨年、友人と2人で、10月中旬から11月中旬にかけて、初めて日本を旅行したときのお話をうかがいました。フランスからホテルの予約をしたのは最初の2泊だけで、後は、旅行をしながら気に入った街があれば、そこに宿泊し観光をするという方法で1ヶ月の旅行をされました。英語を少しとジェスチャーでの個人旅行でしたが、とても良い旅行ができましたと語って下さいました。

特に思い出に残っているのは、日光で見たすばらしい紅葉と、広島で、偶然にも2日間の大相撲の興行があり、半日大相撲観戦が出来たこと。日本の人々にとても親切に対応してもらえ、各駅にある観光案内所がとても良くオーガナイズできているので、旅行がしやすかったとのこと。また、ホテルの予約も親切に手伝ってもらえて、あるときなどは、ホテルへの道順を尋ねた通りがかりの人が、ホテルまで案内してくれましたと、良い印象ばかりのようです。食べ物は、お寿司や、魚料理がとても気に入った様子でした。

次回は、来年、1ヶ月ほどの予定で、今度は、南の方、九州、四国を回り、特に、自然を鑑賞したいということです。それから、前回、2/3日しか滞在しなかった東京ももう少し観光したいということでした。前回、明治神宮で七五三のお祝いを見たので、そういう伝統的な風景も東京で見たいということです。名古屋は名前だけ知っているが、まだ、訪れたことはないということでしたので、やはり中部地域全体を紹介し、ぜひお訪ねいただくようにお勧めしました。

参考までに、旅行代金は、航空運賃込みで、4,000ユーロくらいだったそうです。次回も同じくらいの予算で、予定されているそうです。

ミッシェル&ジュリアン・ヴィルコスキさん（60代、夫婦）

定年退職後の旅行を考えているというヴィルコスキさん夫婦。これまでタイやスリランカなど、アジアの国をいくつか訪問したことがあるそうです。スリランカで見た天女の壁画が素晴らしかったなど、自身の旅の思い出を熱く語ってくれました。日本へはまだ行ったことがないが、フランスとは全く違う日本の風景や文化に興味があり、「退職した今は完全に自由だから、1ヶ月くらいかけてゆっくり日本中を見てみたい」とのこと。ぜひ桜も見たいし、温泉にも入ってみたいが、特に四国の八十八か所の巡礼に興味があり、ぜひ歩いてみたいとおっしゃっていました。お二人には、日本の歴史をたどりつつ素朴な風景が楽しめる中部地域を縦断する旅行をお勧めしました。



マリー・ラフォンドさん（50代、女性）

1976年以來の日本人の友人を持つマリーさんは、既に日本を訪れた経験があります。逗子在住の友人宅に滞在し、東京近辺を散策し、その他の都市には、友人にホテル、旅館、を予約してもらい、一人旅をするそうです。既に、東京、鎌倉、日光、高山、姫路、京都、宮島などを訪問しており、各地で食べたお寿司、蕎麦、お好み焼きがとても美味しかったとのこと。マリーさんは、大の旅行好きで、これまでに日本以外に、中国、台湾、ベトナムなど、世界60カ国を訪れているそうです。

次回の日本訪問予定は、今年の11月で、既に航空券も購入済みです。旅行家のマリーさんらしく、インターネットでプロモーション価格のチケットを上手に手に入れたそうです。往復で約500ユーロだそうです。次回の日本訪問では、民宿に泊まりながら日本中を旅行するなかで、ぜひ富士山に登りたいとのこと。いろいろな国を旅行しているマリーさんにとっての日本の印象は、自然と伝統が存在するととても良い国。次回も、一人旅をするそうです。

クリスティアーヌ&ギィ・ルパニョル夫妻（60代）

60代のお二人は、ヨーロッパとは全く違う文化・雰囲気を持ったアジアに惹かれ、何度も足を運んでいるとのこと。今回、日本への2度目の旅行を計画中で、そのための情報を集めに展示会に来場したとのこと。（来年の夏の旅行のための準備だそうです。）

1回目の旅行では、2週間にわたって、東京・京都・奈良・大阪・箱根・姫路・岡山・広島・宮島を訪問したそうです。（これらの地名を挙げるのに、淀みなく、しかも東から西に順番に挙げていただいたことに驚きました！）これらのなかでは、日本の現在と伝統を象徴する意味で、東京・京都が特に気に入ったとのこと。また、旅先で入ったレストランでとても心のこもったおもてなしを受け、感動したとおっしゃっていました。



お二人による日本のイメージは、伝統と現代が調和した国、テクノロジーが非常に発達した国、あらゆることがきちんとオーガナイズされた国、というものだそうです。愛知・名古屋を紹介し、日本の産業の中心地のひとつであり、工場見学もできることをお伝えしたところ、「前は通り過ぎただけだったから知らなかった。今度の旅行では検討したい。」とおっしゃっていただきました。

ジェローム・カルパンチエさん（20代、男性）

日本にはまだ行ったことがないという銀行マンのジェロームさん。彼にとっての日本の印象は、先進国であると同時に、伝統を重んじ、相手を尊重する文化を持つ国。同時に、マンガやビデオゲームの国というイメージも強いそうです。No!life というオタクカルチャーの専門TVチャンネルを通して日本に強い関心を持つようになり、すし、空手、こんにちは、かわいい、柔道などの単語もこのチャンネルで覚えたそうです。



2年以内に日本に行くことを目指しており、そのために日本語を習うつもりだそうです。文化を知る為にはコミュニケーションが大切であり、日本に行く前に最小限の日本語を身につけておきたいとのこと。2週間程度の行程で、東京、富士山、京都、長崎、宮島などを訪れたいそうです。ツアーを使うかどうかまだ決めてないが、日本の各都市を訪問することで現代性と伝統の双方を感じてみたいとおっしゃっていました。初めての海外旅行として特に日本を選んだ理由は、日本人は穏やかかつ静かで、ストレスがない国であるとの印象をもっているからとのことでした。愛知・名古屋は知らないとのことでしたので、自動車・航空機をはじめとする最先端産業と、伝統文化の双方を体験できる地域であるとPRしました。

ルイ&ジュヌヴィエーヴ・ヴェルメ夫妻（50代）

最初は、シンガポールから日本に入り、約2週間の予定で日本を旅行するとおっしゃっていたご夫妻ですが、よくお話をお聞きしてみると、なんと約1年をかけて世界を一周する計画であり、その訪問先の一つとして日本にも立ち寄るといふ計画だそうです。参考までに、イギリスの旅行会社が企画したこの世界一周の航空運賃は、1人当たり約2,000ユーロだそうです。



日本では、歴史的人物のゆかりの地を訪れること。行ってみたい街は、東京、大阪、広島など。ご夫妻の持つ日本のイメージは、文化的にも技術的にもとても発展した国であり、人々は伝統を重んじ、繊細である一方で閉鎖的、そして近代化と伝統が両立している国だそうです。そこで、日本最大の産業集積地である愛知と数々の武将を生んだ愛知をPRしました。

2012年に世界一周旅行に出発するヴェルメご夫妻は、今から日本や他の訪問国の情報を集めて検討し、有意義な旅行になるようより良い準備を進めているそうです。そして、ヨーロッパとは全く違う日本の風景、文化を満喫したいと話してくださいました。

イリーナ・ナホンさん（30代、女性）

子どもの頃に日本を紹介する本を読んで以来の日本びいきだというイリーナさん。ロシアのサンクト・ペテルスブルグのご出身で、現在はフランス人と結婚されてパリに住んでいらっしゃいます。彼女による日本のイメージは、礼儀正しく穏やか、世界に類のないユニークな国です。結婚する以前にはサンクト・ペテルスブルグにあった「日本センター」に通い、日本に関するさまざまな情報を集めていたといいます。また、どうしても日本に行きたい一心で選んだ職業は観光関連業界で、旅行代理店やホテルで働いていたそうです。

彼女には既に日本を訪問した経験があり、これはご主人の出張に合わせた訪問だったそうです。この際には、東京、京都、大阪、奈良そして神戸を訪問されたとのこと。そこで、日本の公共交通機関の運賃の高さに驚き、一方で、思ったよりも高くない日本の外食費用に安心したそうです。また、非常に精巧にできたレストランの食品サンプルに感動したとおっしゃっていました。愛知・名古屋はご存じなかったので、最先端産業と、伝統文化の双方を体験できる地域である愛知・名古屋をPRしました。

〈パリ産業情報センターにおける今後の観光PRの取り組みについて〉

パリ産業情報センターでは、今回のパリ観光見本市以外にもヨーロッパ各地で開催される見本市・展示会に出展するほか、在ヨーロッパの観光事業者・航空会社などによるファミトリップの企画を支援するなど、観光地としての愛知県の魅力を発信していきます。

愛知県海外産業情報センターでは外国企業の誘致に取り組むとともに、貿易引合情報の収集・提供、投資環境調査、経済動向等各種の情報収集、中小企業の海外活動の支援などを行うほか、外国人観光客の誘致にも積極的に取り組んでいます。
